

クリニック経営に役立つミニコラム ①

コロナによりクリニックの経営環境は大きく変わったのではないのでしょうか？

開業医の奥様のための勉強会「**医ッ歩一步の会**」を主宰するよこやま内科小児科クリニック理事の横山様に、「**自動釣銭機の導入**」について伺いました。



横山実代様 プロフィール
よこやま内科小児科クリニック理事
ジャパンウーマンソサイエティ代表
<https://jwsociety.jp/keieikouza.html>

移転開業して18年。経営難だった2代目ドクターを支え地域になくてはならないクリニックに。3児の母。開業医の奥様のための勉強会「**医ッ歩一步の会**」を主催、勉強会や情報交換会を多数実施。個別コンサルティングの要望も多い。

当院ではこの度、自動釣銭機の導入を決定しました。小さくない出費（投資）ですがコロナ禍の今と将来を見据えての判断です。

患者様とスタッフの接触機会を減らす

導入の目的の一つは、コロナ禍、患者様とスタッフの接触機会を減らすことです。発熱のコロナ疑いの患者様、保健所からの無症状の濃厚接触者のPCR検査依頼など、スタッフもコロナと隣り合わせで業務をしています。

彼女たちが安心して業務に当たれるようにすることが私の務めですし、コロナ対策をしっかりとすることで患者様にも安心して来院していただければとの思いからの導入です。

電子カルテから出る領収書のバーコードをスタッフが読み取り患者様に入金してもらう仕組みです。会計そのものを患者様にさせていただくという選択肢もありましたが、受付で再来予約や処方箋を渡すことを考えると、また全作業を患者様にさせていただくかえって時間がかかってしまう懸念もあったのでセミセルフレジからのスタートとなりました。

業務の効率化

もう一つの目的は、IT化、機械化による業務効率の向上です。

皆様のクリニックではレジ締め後に現金が合わないことはありませんか？ そのような場合、何回も数え直したり、計算をやり直したり、直接関係のないスタッフまで残ったり、していました。

数え直しの時間が長くなると口にはださないもの「犯人探し」になったりします。そんなことも今後はなくなりそうです。

ちょっとした支払いや集金などのために小口現金を準備したりする必要もなくなります。出金が記録されるので小口の現金管理がとても楽になることも期待できそうです。

今後はIT化も進んでくるでしょう。予約システムからすぐに問診、データのまま先生が確認し、電子カルテ、電子処方箋、そして自動会計機、のようにいままで人がやっていた部分の多くがITに置き換わっていくのではないのでしょうか？

そうなってくると今まで以上に人間は機械にできないこと、気づかみや他の人の状況や気持ちをおもんばかるようなことが必要になるかもしれませんね。

余談ですが、システム全体では100万円超でしたが、釣銭機、レジ型PC、バーコードリーダーをセットではなく個別見積もりにしたことで一括償却もできそうです。

